

地域で支え合うまちづくり



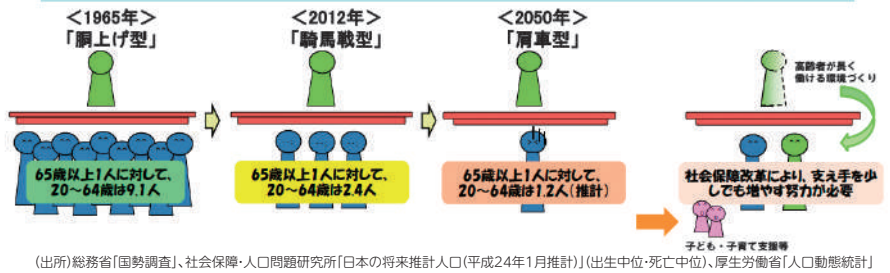
～住み慣れた地域で暮らし続けるために～

2050年には、一人の高齢者(65歳以上)に対して、現役世代(20～64歳)が1.2人で支える事が予想されます。(右図)

高齢者人口が増えていく社会において、住み慣れた地域で暮らし続けるためには、役割を持って社会参加していくことが大切です。そうすることにより、つながりができ、下記のような効果も期待されます。例えば、自身の健康づくりに励む方は、培ってきた健康づくりの知識やスキルを地域で広めるなどしてみてはいかがでしょうか。

「肩車型」社会へ

今後、急速に高齢化が進み、やがて、「1人の若者が1人の高齢者を支える」という厳しい社会が訪れることが予想されています。



つながり 効果

「健康」「防犯」「孤立の防止」「災害時の支え合い」など

わたしたちのまちの支え合い・できることからはじめよう!!

私は、挨拶からかな



集いの場

お祭り・盆踊り



登下校見守り

草刈り・ゴミ拾い



日常の気遣い

まず訓練では、津波に備えて、避難経路や一時避難場所まで歩いて確認しています。また、防災講座では、災害時のトイレ使用や家具固定の重要性などを紹介し、最後は炊き出しで楽しく交流を深めています。その他に、会員と区民の協力で、年5回の資源回収を行っています。

いざという時のために、一人でも多くの区民に防災意識を高めていただき、会では「近所で近助」をスローガンに両隣で助け合い、今後も活動していきたいと思えます。是非、ご参加を。

美浜町は、温暖で災害も少ないイメージから「津波の心配はないよね」と、何となく思っている方が多いと感じます。2011年、東日本大震災が発生し、テレビで放送された津波の映像を観たことをきっかけに「この区にも災害が起きる可能性は高い」と感じ、2012年8月、3人の仲間と「奥田北区民自主防災交流会」を設立しました。防災を通して、最近薄れつつある地域のつながりや、多世代間の交流の場作りを提供しようという交流会とつけました。

現在、奥田北区民を対象に28名の会員で毎年4月に防災訓練を開催しています。

奥田北区民自主防災交流会
代表 石田 さへ子さん



特集
第十四回 「近所で近助」防災を通じた助け合い活動
広報による
リレーレター
地域支え合いレター
つなげる・つながる

生活支援
コーディネーター
からのメッセージ

◎いざという時に慌てないために、速やかな判断と避難ができるよう、楽しみながら一緒に考える取り組みがいいですね。



次回は、おしゃべりサロン布土
代表 寺澤 銀子さんへ
バトンタッチします。



「学生と一緒に炊き出し」



「避難経路確認・訓練」

●問合せ 社会福祉法人美浜町社会福祉協議会 生活支援コーディネーター 田中 ☎83-2066
福祉課 内線361・362